



グラフィックデザイナー  
はら が りゅう いち  
**原 賀 隆 一** さん

- プロフィール
- 1950年 9月1日生まれ。小・中・高校時代を玉名郡三加和町で過ごす
  - 1977年 印刷会社勤務を経て熊本市内にデザイン事務所を設立
  - 1991年 「ふるさと子供グラフィティ」を自費出版
  - 1992年 「ふるさと子供グラフィティ」より熊日出版文化賞受賞
  - 1993年 「ふるさと子供ウイズダム」を刊行

大人の心の片隅で眠っている子供時代の屈託ない遊びの数々。それらの記憶を鮮烈に思い出させてくれる本が、原賀隆一さんの「ふるさと子供グラフィティ」です。「ごく個人的な思い入れ」で生まれた本は、熊本はおるか海外にまで反響を呼び、大人自身の生き方を問う一冊にもなったようです。このほど、その第二弾を刊行した原賀さんにお話を聞きました。

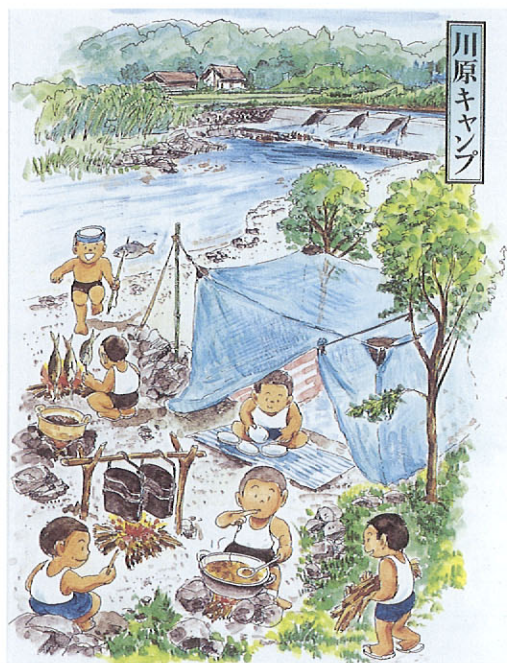
## 親を泣かせるほど遊んだ子供時代

子供のころ、私はもう目茶苦茶遊びましたよ。あまりにも勉強しないので、両親も「よかない、勉強せん結果は自分で返ってくるけん、そんときは面倒は見らんよ」と言うほどで（笑）。その遊びの癖が大学生になるまで続いて随分、親を泣かせたと思います。



でも何ていうか、あれほど一生懸命遊ぶと、その中で集中力や持久力が身に着くんですよ。この二つは大人になって仕事をやる上で一番大切なんです。私は会社勤めをやめて独立したとき、がむしゃらに働いたけど、それも子供時代があったからでしょうね。  
**大人に自分の子供時代の楽しさを思い出して欲しかった**

何とか仕事軌道に乗ったころ、ふつと昔の遊びを描いてみたくなったんです。コッコッ描きためたものを知人に見せると皆、「そうそう、私もこがんだった。本にしたらどうね」と。すると私も「一生に一度のこと」と、いろんな思いを詰め込みたくなった。だって、毎日ニュースとか見ると、胸の痛くなる子供の事件ばかりでしょう。世間じゃ結果だけ見て「今の子供は……」と言うけど、私は「大人の都合を子供に押しつけるな」と言いたかった。



「ふるさと子供グラフィティ」より

でも、それをストレートに表現すればただの説教。私はかつての遊びや暮らしを描くことで、大人も自らの子供時代を思い出してくれるような、ほわつとしたものを表わしたかったんです。本を出す前は、受け入れられるか心配だったんですが、むしろ好意的な反響が大きくてびっくりしました。子供か

## 子供は昔も今も変わっていない。 うんと遊ぶことで「知識」とは異なる 「知恵」が身に着くんです。



らも手紙をもらったときは、嬉しかったですね。  
それで、わかったんですけど、子供は昔も今も本質的には変わってない。みんな遊びたがっている。それを、あれはダメこれもダメと、全部大人が規制する。私が育ったころと時代背景が違うから、昔に帰れと言うつもりはありませんが、今だって工夫次第で、いろんな遊びが可能なんです。  
**遊ぶことで知識とは異なる  
生きた知恵が身に着く**

「今の子供は知識があっても知恵ウイズダムが欠けている」との江崎玲於奈さんの言葉を聞いたとき、これだ、と思って今度の本のタイトルにも入れました。子供時代は大勢の友だちとうんと遊ぶことです。大人は要所さえ押さえとけば、後は関与し過ぎない。  
子供は遊びを通して、人間関係のあり方、危険を知る力、自分で勝ち取る喜び、自然の豊かさなど、学校で習う知識とは異なる知恵が身に着くんじやないでしょうか。

私は自分が育った三加和町が世界で一番と思ってます。緑深い山と、魚が獲れる川。そこには危険も背中合わせでした……。人間に素晴らしいウイズダムをもたらしてくれるのが故郷です。今、三加和の両親のために家を建てて帰りますが、それには、いつか自分も帰りたいという思いがあるんですね。